

平成 18 年度の対 17 年度比赤字病院比率の増加割合は、療養型病院が最大だが、ケアミックス病院が次いで大きく増加している。医業利益率でも同じ動きだが、療養型病院とケアミックス病院の悪化が目立っているのは、平成 18 年度の診療報酬改定で、従来の療養型病床優遇策にブレーキがかかったことを反映したものであろう。

なおケアミックス病院における赤字病院比率でもう一つ注目されるのは、その高さである。その比率は 30.7%に達している。使用データが必ずしも同一でないので、即断はできないが、赤字病院比率が 3 割台というのは異例である。

いずれにしても、こうした収益率の低落は、いうまでもなく近年の診療報酬引き下げの影響を受けたものといえる。

2) 収益力の種別比較

病院種別ごとに平均在院日数を見ると、一般病院 28.3 日、ケアミックス病院 97.4 日、療養型病院 315.0 日、精神科病院 545.3 日となっている（表 4）。

そこで分析の便宜上、一般病院・ケアミックス病院を短期入院型、療養型病院・精神科病院を長期入院型として、以下論述する。

表 4 病院種別ごとの平均在院日数（平成 18 年度 医療法人）

	一般病院	ケアミックス病院	療養型病院	精神科病院
平均在院日数	28.3	97.4	315.0	545.3

(日)

短期入院型
長期入院型

平成 18 年度の種別ごとの収益力を医業利益率で示すと、表 5 のとおりで、短期入院型の一般病院、ケアミックス病院は 2%以下、これに対して長期入院型の療養型病院、精神科病院は 4%強と、両者の間には 2 倍以上の開きが認められる。

表 5 医業利益率（平成 18 年度 医療法人）

	一般病院	ケアミックス病院	療養型病院	精神科病院
医業利益率	2.0	1.5	4.4	4.6

(%)

病院種別のこうした収益力格差は、わが国では一般病床削減という政策を受けて、特に療養型病院を中心に長期入院型に手厚く、短期入院型に薄い診療報酬体系が背景にあると言える。

ところでここでもケアミックス病院の低収益が目立っている。病院種別の収益力格差は、平成 17 年度以前にあつては、高い順に療養型病院、精神科病院、ケアミックス病院、一般病院となっていたが、18 年度にケアミックス病院が大幅に低下した結果、ケアミックス病院が最下位となった。